

平成28年5月20日
在アンゴラ日本国大使館
医務官 麻生有二

医療情報 黄熱病関連情報

在留邦人の皆様 如何お過ごしでしょうか。黄熱病について報告致します。黄熱病について近隣諸国、中国などに伝播しておりジュネーブのWHO本部にて、IHRの緊急委員会が開催され、アンゴラ及びコンゴ(民)における黄熱の流行が「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)」に該当するかどうか、検討されました。結果、ひとまず緊急事態宣言は発出されない見込みです。

【アンゴラの状況】

これまでの疑いを入れた感染者総数 2,420 人(確定 736 人) 死者 298 人(確定診断 96 人) 確定診断 736 人中 ルアンダ州 459 人(62, 4%)。感染者 15 歳から 29 歳は 70%が男性である。(WHO: 5 月 15 日現在)

感染のピークは 1 月末から 2 月中旬にかけて見られた。ルアンダ州を中心に接種が行われているが(91%)、全国的に見るとこれまでの接種率は約 770 万人/接種できる人口約 1800 万人で約 43%です。地方では Benguela 州、Huambo 州、Cuanza Sul 州、Huila 州、Uige 州では接種が始まりました。その他の州ではまだ手つかずの状態です。

【問題点】

- ・ワクチン、注射器具などの絶対量が足りない。
- ・地方へのワクチンの輸送手段(要冷蔵)が確保されていない。
- ・医療関係者の黄熱病に対する知識が不足している。
- ・国民の黄熱病に対する知識、理解が不足している。
- ・公衆衛生状態が良くない。
- ・ゴミ処理が施されていない。

【対応】

WHO ではこれまで 60 人の専門家を動員してワクチンの確保、車両の寄付、疫学の専門家、統計学の専門家、診断方法の支援、医療関係者への教育を行っています。

アンゴラ政府の対応は、全国民へのワクチン接種を進めて行くこと、入出国

審査を厳格にすることなどが挙げられます。

【所感】

アンゴラ国民の黄熱病に対する知識や理解が不足しておりマラリア、デング熱、食中毒に比べて優先度が低いと思われます。ルアンダ市内の公衆衛生は最悪の状態でありこの問題を解決しない限り終息は困難でしょう。エボラ騒ぎのように、新たな感染症の発生も懸念されます。

アンゴラに滞在されている皆様のご健康をお祈り致します。

【参考】

WHO

<http://www.who.int/emergencies/yellow-fever/situation-reports/12-may-2016/en/>

<http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2016/ec-yellow-fever/en/>

厚生労働省

<http://www.forth.go.jp/useful/yellowfever.html#u>

外務省

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcwideareaspecificinfo.asp?infocode=2016C149>